

▽▲第84回定期全国大会に基づく申し入れ▲▽ 道南支部

松本順一北海道地方支部長兼道南支部長は、全国海友婦人会函館支部と共同で各自治体首長に対し、第84回定期全国大会決定事項に基づき申し入れを行った

大会決定事項や道内での船員職業普及活動、組織船の被災地支援活動などについて説明。各対応者から見解が示された。道南支部は各自治体に、書面での回答を求め、組合活動への理解と協力をお願いし、申し入れを終了した。

■函館市 1月29日 ご対応=田畑浩文副市長

▽昨年、函館で開催いただいた定期全国大会が経済の活性化につながり、感謝している

▽漁船員の高齢化、人材不足に関しては実態調査を行い、対策の検討を進めている

▽昨年7月20日の「函館マリンフェスティバル」など、海に親しむ活動としてイベント開催に継続して取り組んでおり、船員職業に対しても、子どもたちに興味を持ってもらえるよう努めていきたい

▽申し入れ内容について関係部署と連携して回答したい

■北斗市 1月30日 ご対応=工藤実副市長

海の現状は見えにくく、関係者が声を上げる必要がある。海に親しむ活動として、鮭のさばき方体験やホッキ貝突き漁体験を実施している。青函連絡船など、昔は船が身近にあったが、現在は触れる機会が減ってきている。

■七飯町 1月31日 ご対応=杉原太町長

自身も 学生時代はボート部に所属。海は身近なもの。当町から函館水産高校へ通う学生は多い。高校存続に関心があり、存続に向けて、できることは協力したい。

■江差町 2月1日 ご対応=照井誉之介町長

当町はハートランドフェリーを通じて奥尻島と結ばれ、船に親しむ機会が多い。小中学校を対象に船の職場見学も実施しており、継続したい。船員の確保・育成については、改善していければと思う。

「海員だより」